

ひろしまの遺跡

第128号

眺めのよい丘陵上に造られた古墳群

—地頭分津ノ尾第1～5号古墳（福山市）—



第3・4号古墳の発掘作業風景（北西から。左側が第3号古墳，右奥が第4号古墳）



第3・4号古墳（北西から）

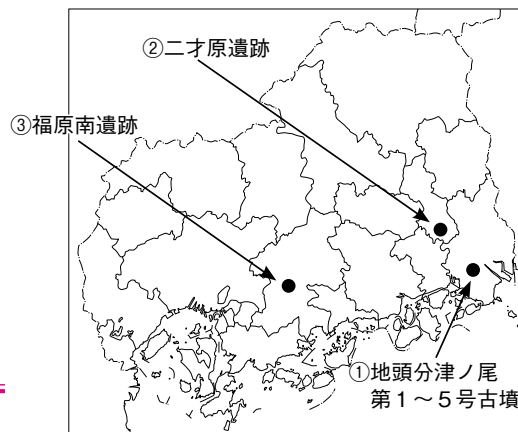
地頭分津ノ尾古墳群は、北西を流れる河手川と東を流れる瀬戸川に挟まれた丘陵の先端部、標高60～70m付近の高所に造られた古墳群です。

一般国道2号改築（福山道路）工事に伴い、第1～5号古墳の計5基が発掘調査対象となり、令和元年度に一部調査を行いました。今年度はその続きとして各古墳の未調査部分を調査しており、これまでに第2・3・4号古墳の調査を完了し、古墳の形や規模を確認しました。

発掘調査速報

📍 地頭分津ノ尾第1～5号古墳（福山市瀬戸町）

調査期間 令和4年4月11日～12月（予定）



ここでは、調査が完了した第2・3・4号古墳の内容をお伝えします。第2号古墳は、北側に区画溝を掘り、東側は地山を削って墳端を造り出した、径13～14m程度の円墳であることがわかりました。古墳の大部分は自然の地山を加工して造られており、東南部では岩盤が露出する状況が確認できます。第3・4号古墳では、いずれも周りに巡らせた溝（周溝）が確認できました。第3・4号古墳ともに円墳であり、大きさは第3号古墳が径11m程度、第4号古墳が径13.5m程度であることがわかりました。第2号古墳と違って、第3号古墳では表土の上に盛土を何層にもわたって積み上げた痕跡が見つかりました。また、隣り合っている第3・4号古墳はその築造順が注目されましたが、第3号古墳の周溝が第4号古墳の周溝より後に掘り込まれたことが確認できたため、第3号古墳の方が新しく造られたことがわかりました。

今年度の調査では、土師器や須恵器といった焼き物の破片、小型の鉄製刀子などの遺物が見つっています。各古墳は古墳時代中期頃の築造と推定されますが、詳細は検討中です。遺物の特徴から時期を絞り込むために、今後、出土遺物の細かい破片を接合し、形の復原を試みていきます。

（村田 晋）



第4号古墳（北から。古墳のまわりに周溝が巡っている。）



第3号古墳（南から。周溝あり。）



発掘作業風景（左：第2号古墳，右：第3・4号古墳。）
夏季は寒冷紗（日よけ。右の写真）が欠かせません。



第3号古墳土層断面（西から。
黒い層より上はすべて盛土。）

二才原遺跡（府中市広谷町）

調査期間 令和4年4月11日～6月10日

二才原遺跡の発掘調査は、一般県道新山府中線道路改良事業に伴い実施しました。

遺跡は、芦田川が東に流れる府中市街地の北にある丘陵の裾部に立地しています。遺跡の北側に接する道は、石州街道といわれています。

遺跡は備後国府から約1km東の位置にあり、同町内では国府の推定地にかかる確認のための発掘調査が過去に行われています。その際には、地割の溝が検出されています。

調査の結果、建物跡の柱穴の可能性のあるものを含めてピットが76基、溝状遺構2条が確認できました。

建物跡の柱穴と思われるピットとピットの中間には、礎石が設置されているものがあり、倉庫跡の可能性もあります。また、この建物は廂を持った建物であったことも考えられます。

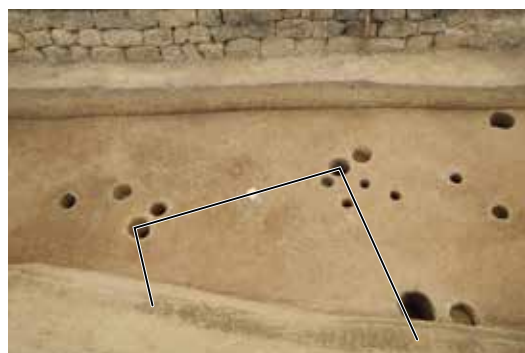
溝状遺構は、古代からの地割と主軸が同じ方向であることから、当時の地割が残されていると考えられます。

遺物は、ピットから土師質土器や鉄釘、炭化物、溝状遺構から弥生土器が出土しているほか、調査区内からは、弥生土器、須恵器、土師質土器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器、白磁、土錘、布目瓦、石斧、石鏃、鉄釘、ガラス小玉などさまざまな遺物が出土していますが、いずれも流れ込みと思われます。

本遺跡の遺構は国府と同時代と考えられ、国府域と同様の遺物が出土していることから、倉庫群など国府に関係する施設が存在していた可能性のある貴重な調査例となりました。（恵谷泰典）



調査区全景（南から）



建物跡（南西から）



柱穴内遺物出土状況（南東から）



遺跡空中写真（西から）

福原南遺跡（東広島市寺家）

調査期間 令和4年7月11日～9月22日

福原南遺跡は西条盆地の北西縁辺部の北東から南西に延びる細長い舌状の丘陵尾根にあります。調査の結果、西部から土坑3基（SK 1～3）、溝状遺構4条（SD 1～4）、多数のピットを検出しました。ピットの中には根石と推定される石が入ったものや土層断面で柱痕が確認されたものもあり、その多くは柱穴だったようです。建物の規模については現在検討中です。

東部では大規模な性格不明遺構3基（SX 1～3）を検出しました。SX 1は長さ約7m、幅約6m、深さ約1mで、地表面を竪穴状に掘り込んで平坦面を作り出しています。埋土には中世の土師質土器等が含まれ、底面付近から花崗岩で作った五輪塔の空風輪が出土しました。

平成30（2018）年度に東広島市教育委員会が本調査区の南側で実施した発掘調査では、弥生時代の竪穴住居などがみつき、旧石器時代と考えられる石器が出土しています。このことから今回の調査では旧石器の有無を確認するために、部分的に段丘礫層の可能性のある円礫混じり層まで掘下げを行いました。

遺物は、土師質土器・陶磁器などの土器類、砥石・五輪塔などの石製品、釘などの鉄製品が出土しました。大部分は中世（16世紀代）のものです。

今回の発掘調査では旧石器や弥生時代の遺構はみつきませんでした、この遺跡は弥生時代から中世にかけての集落跡であったことが分かりました。

（岩本芳幸）



空中写真（南西から） 破線内が調査地点



調査区全景（北東から）



調査区東側完掘状況（北東から）



SD1 完掘状況（南東から）

ひろしま考古学講座X(2021)

—考古学おいでまいど3—

2022年1月から全6回の開催を予定していた「ひろしま考古学講座X」は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、第2回以降は延期となりました。6月から順次再開し、延期分の講座を開催することができました。

ひろしま考古学講座X(2021) —考古学おいでまいど3 (オンデマンド・On Demand企画) —

会 場 広島県立美術館 講堂 (広島市中区上幟町2番22号)

時 間 14時00分～16時00分

回	期 日	演 題	講 師
2	6月4日(土)	弥生時代の広島県とその周辺地域における石器の流通	乗松 真也 (愛媛県埋蔵文化財センター)
3	6月18日(土)	古代吉備における製鉄遺跡の研究	上村 武 (岡山県教育庁文化財課)
4	7月2日(土)	装飾付大刀からみた 古墳時代の広島県と周辺地域	吉松 優希 (島根県古代文化センター)
5	7月30日(土)	下岡田遺跡の謎(14時～15時)	渡邊 昭人 (当事業団埋蔵文化財調査室)
6		仕切石と土器床のある古墳(15時～16時)	山田 繁樹 (当事業団埋蔵文化財調査室)



第2回(6.4)(聴講者49名)



第3回(6.18)(聴講者78名)



第4回(7.2)(聴講者77名)



第5回(7.30)(聴講者72名)



第6回(7.30)(聴講者69名)



受 付

南観音考古学教室Ⅸ

見る・聞く・やってみるの考古学

南観音公民館と共催で、南観音考古学教室を開催しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となり、2年ぶりの開催でした。参加者は地域の小学生がほとんどで、第1・2回に実施した勾玉づくりは毎年大人気です。第3回のお仕事拝見（職場見学）では、埋蔵文化財調査室の施設見学と、整理作業の様子を見学し、最後に和同開珎の鑄造体験を行いました。職場見学は4年ぶりの実施でしたが、参加者からは普段見られない部分を見学できて、とても楽しかったと言って頂きました。

回	期 日	時 間	内 容
第1回	7月27日（水）	10時～12時	きらきら教室－勾玉づくり
第2回	8月3日（水）	10時～12時	きらきら教室－勾玉づくり
第3回	8月17日（水）	10時～12時	埋蔵文化財調査室のお仕事拝見と古銭の鑄造体験



きらきら教室（勾玉づくり）のようす



お仕事拝見と古銭の鑄造体験のようす

インターンシップ研修

8月15日（月）～19日（金）に、安田女子大学の学生5名が当室でインターンシップ研修を行いました。初日から土器の洗浄などを行い、慣れない作業に奮闘しました。研修期間中に開催した南観音考古学教室第3回の職場見学では、参加者に遺物の洗浄を実演したり、鑄造体験の手ほどきを行うなど大活躍でした。



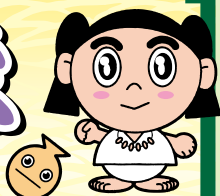
鉄器の洗浄



鑄造の実演

考古学

アラカルト 58



情報求む！その1 謎の鉄製品



西8地点遺跡 SK6 鉄碗出土状況（南西から）

西8地点遺跡（東広島市）は、平成2～3（1990～1991）年に発掘調査が行われた弥生時代後期の集落跡です。丘陵部斜面につくられた土坑SK6から、碗形の鉄製品が出土しました。碗形鉄製品は深さ約50cmの土坑の中央付近、深さ20～40cmの位置で出土しました。下には長さ約20cmの直方体状の石があり、重なるようにして出土しています。

鉄製品は器壁の厚さが1mmと非常に薄く、少しでも振動を与えると壊れてしまいそうなほど脆いため図示できませんが、おおよそ口径12cm、底径8cm、器高13cmほどに復元できます。口縁端部は外側に折り曲げて丸く成形しています。形状は底部から口縁部にかけて丸みをもち、底部外面には叩いたような窪みがみられます。底面は周縁部を突出させ、高台

状に成形されています。器壁の薄さや表面の様子から、この鉄製品は鍛造品と考えられます。

西8地点遺跡では弥生時代後期の集落跡のほか、古墳時代後期の古墳、近世の火葬墓が見つかっており、鉄製品の出土したSK6はこのいずれかの時期の可能性がありますが、類例がみつかっておらず、詳しいことは今後の調査を待たなければなりません。

鉄製品は劣化の進度を抑えるために保存処理を行います。このような器壁の薄い立体物の処理経験がなく、処理方法にも頭を悩ませています。発掘調査から時間が経っているため、情報を収集し、早急に対処したいと思います。



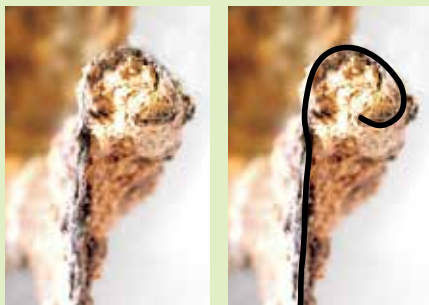
口縁部～体部外面



底部外面



底部内面



口縁端部



底面（上が底）

底面周縁部の立ち上がり

敲打痕か

こぼれ話

AED講習を行いました

今年度から調査現場にAEDを置くことになり、講習を受けました。機械の使い方から心臓マッサージまで、職員全員が実際に触って体験しました。基本的には機械の指示に従って動くのですが、心臓マッサージはやってみると加減が難しく、コツを掴むまで練習しました。



講習の様子



オンライン会議

会議はオンラインで

コロナ禍になってから行われるようになったことのひとつが、オンライン会議です。密になることや不要な移動をせずに済むので便利なのですが、本当にその会議のことしか話さないため、他機関の調査内容について聞くなどの、ちょっとした情報交換等ができず、不便な面もあります。

令和4年度

ひろしまの遺跡を語る —報告と講演—

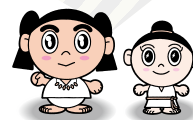
お知らせ

開催日 令和5年1月28日(土) 13:00~16:20(開場12:00)

会場 広島県民文化センター 多目的ホール

日程(予定)

聴講無料



13:00~13:10	開会行事	
13:10~13:20	調査研究報告Ⅰ	「二才原遺跡の発掘調査」当事業団職員
13:20~14:40	調査研究報告Ⅱ	「福原南・横田1号遺跡の発掘調査」当事業団職員
13:40~14:00	調査研究報告Ⅲ	「地頭分津ノ尾第1~5号古墳の発掘調査」当事業団職員
14:00~14:30	事例報告	「ひろしまの三角縁神獣鏡」元当事業団職員 伊藤 実
14:30~14:45	休憩(事務連絡・展示見学)	
14:45~16:15	講演	「ヤマト政権の成立過程と三角縁神獣鏡」 大阪大学大学院人文学研究科 教授 福永伸哉
16:15~16:20	閉会行事	

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせします。

あとがき

AED講習は自動車学校でも受けたのですが、すっかり忘れてしまっていました。いざというときにしっかり動けるよう、練習します。

今年も「ひろしまの遺跡を語る」を開催します。昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、開催できませんでしたが、福永伸哉先生には引き続き講演をしていただけることになりました。楽しみにされていた方は、ぜひご参加ください。申込方法等については、改めてご案内いたします。

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第128号

発行日 令和4年11月11日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4丁目8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <https://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント

